

平成 28 年度事業報告書

研究所の設立者である大倉邦彦は、『大倉山論集』第 8 輯（昭和 35 年 7 月発行。30 周年記念号）において、次のように述べています。「科学文明のみが絶えず進歩して、一方、精神文化の方面はこのまま足踏みの状態を続けているならば、折角発達進歩した科学の力も人間に真の福祉を保障する訳には行かなくなるかも知れない。」。大倉邦彦のこの指摘は、現代社会にも共通する、極めて重い課題といわなければなりません。

公益財団法人移行後 5 年目となる平成 28 年度（以下「28 年度」という。）では、こうした課題意識のもとに策定した次の三つの柱で構成される事業計画に基づき、定款第 4 条に定める公益目的事業を着実に推進しました。

- ①精神文化に関する研究及びその成果の普及
- ②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及
- ③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

1 精神文化に関する研究及びその成果の普及(定款第 4 条第 1 項第 1 号)

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団の活動目的は、精神文化についての学究的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような目的のもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

当研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉邦彦は、自分は何のために生きているのか、何のために商売をして利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取り組みでした。大倉邦彦は、これを天から与えられた自らの使命と考え、当財団を設立しました。

今日、海外企業からの影響で、企業のフィランソロピー（慈善活動、社会貢献活動）やメセナ（文化支援活動）などの必要性が叫ばれていますが、日本国内にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献活動の考えがあり、江戸時代には石門心学に代表される町人道徳も形成されていました。近代日本の実業家の中には、国内外の思想的背景を元に、様々な社会貢献活動をした人物が数多くいます。

28 年度は、社会貢献活動で著名な実業家や企業を取り上げ、そうした活動がどのような思想、理念に基づいたものか、いかなる社会貢献をしたのかを研究しました。

その研究成果の一部は、大倉山講演会（附属明細書 1 頁参照）や、『大倉山論集』第 63

輯の特集（附属明細書 3～4 頁参照）で公開しました。

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当財団を設立しました。

その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を廻った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで 28 年度は、近代化が日本人の価値観や思想に与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、国際文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究を進めました。研究成果の一部は、公開講演会で発表しました（附属明細書 1 頁参照）。

(3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています（附属明細書 1～3 頁参照）。28 年度は、経常的な資料整理作業（附属明細書 1 頁参照）に加えて、特にアナログ音源のデジタル化事業に取り組みました。

ア アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。そこで、28 年度は、オープンリールテープ 9 本と SPレコード 12 枚をデジタル化しました。さらに、デジタル化した音源を活用して、映像作品「大倉邦彦と巡る大倉山記念館」（29 年 2 月完成）を制作しました。

イ 写真のデジタル化事業

沿革史資料の中には、当研究所設立準備中から今日に及ぶ様々な写真類も含まれています。これらの写真は、当財団の活動内容や地域の様子を知る上で貴重な情報源となります。外部機関よりの問合せや借用依頼も多いことから、この写真類のデジタル化を進めました。

ウ 沿革史資料目録の O P A C 公開

現在整理作業中の沿革史資料は、整理済み資料の目録件数が約 10 万件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。

そこで、28 年度より目録データを、図書館情報管理システム「情報館」のデータに順次

変換し、OPAC (Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な図書館蔵書目録) による目録公開を開始するための準備を始めました。

エ 資料の展示

資料調査や研究成果公開の一環として、研究所資料展を2回、企画展示会を2回開催しました(附属明細書3頁参照)。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、精神文化の研究成果を広く国民全体に普及し、国民生活の向上充実に役立つように公開する手段の1つとして、印刷物や電子情報を提供しています。

ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

『大倉山論集』第63輯を刊行しました(附属明細書3～4頁参照)。

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、「研究所のしおり」を改訂し、講演会チラシ、展示会チラシ、展示解説等を編集発行しました。28年度は、大倉山記念館指定管理者と共同編集により、新たに大倉山記念館の建物案内のリーフレットを編集・発行しました。

ウ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しています。28年度は新規に大倉邦彦の揮毫を公開しました。また、SNSを活用して、ツイッターによる情報発信も行いました。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

(1) 他機関との連携事業

横浜市大倉山記念館指定管理者等の15団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました(附属明細書4～5頁参照)。

港北図書館・港北区役所と連携した事業「横浜港北の昔ばなし紙芝居で地域の元気づくり・地域文化の継承」が、11月9日に地方創生レファレンス大賞審査員会特別賞を受賞しました。

(2) 講師派遣

港北区地域振興課等の11団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を13回派遣しました(附属明細書5～6頁参照)。

(3) 依頼原稿の執筆

港北区区民活動支援センター等の3団体・機関発行の情報紙等へ25本の原稿を執筆し、

掲載されました（附属明細書 6～7 頁参照）。

(4) 調査協力・記事掲載

横浜市緑区の三谷和子氏より札所めぐり関係資料、港北区の柴和紀氏より『新編武蔵風土記稿』関係資料、港北区の寺田貞治氏より港北地域関係資料の寄贈を受けました。

6月8日、坂の上の雲ミュージアムから、元所員秋山大に関する調査を受け入れました。

大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区に関する記事執筆の調査への協力や、当財団主催イベント紹介が、『神奈川新聞』等 15 の新聞・雑誌・ウェブで、計 47 記事が掲載されました（附属明細書 7 頁参照）。

(5) 見学案内

大倉山記念館指定管理者等の 9 団体・機関等からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を 10 回実施しました（附属明細書 7 頁参照）。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

(1) 図書館の公開

附属図書館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで 10 万余冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週 5 日間、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分まで無料で公開しています。28 年度は延べ 246 日開館しました(附属明細書 8 頁参照)。

(2) 資料の収集

精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・儒教・仏教関連及び、歴史の専門的資料に重点を置き収集すると共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備しています。収集した資料は、OPACにより公開しています。28 年度は新たに 818 冊の図書を収集整備しました（附属明細書 8 頁参照）。

(3) 専門図書館としての機能充実

当財団は貴重コレクションとして 23 種類、約 40,000 冊の資料を所蔵していますが、その大半は他館に書誌情報のデータが無い資料でした。そこで、25 年度より、独自に書誌情報のデータ化を進めており、11 コレクションについては OPAC 検索を可能にしました。28 年度は新たに 3 コレクションの書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実を図りました。

ア 貴重コレクション書誌データの OPAC 公開

28年度は、貴重コレクションのうち『名古屋大周寺文庫』（4,056冊）、『北島亘寄贈書』（71冊）、『西晋一郎寄贈書』（92冊）のデータ登録を完了させ、OPACによる検索を可能にしました。

イ 公開資料の簡易データの詳細化と、バーコード貼付

当館では、図書館情報システムの導入に際し、短期間で導入する事と、運用開始時からより多くの資料のOPAC検索を可能にする事を基本方針としました。そのために、多くの資料について、書名・著者名の最小限だけ入力した「簡易書誌データ」を使用して運用を開始しました。システム導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を補足入力した詳細データ化を継続的に進めています。

公開書庫資料の詳細データ化は28年度に終了し、きめ細かな検索が可能になりました。

引き続き、閉架書庫資料約40,000件の簡易データを詳細化する作業に10年計画で取りかかりました。この約40,000件の内には、まだバーコードを貼付していない資料が約19,000件残されています。この貼付作業もデータの詳細化作業と並行して進めています。

ウ 逐次刊行物のOPAC公開

逐次刊行物（雑誌等）は、これまでOPACに未対応で、利用するには館内の目録カードで検索するしか方法がありませんでした。28年度から2年計画で逐次刊行物のデータ入力を進め約630誌のOPAC検索を可能にしました。

エ 貴重コレクション資料撮影

貴重コレクションは、資料保存のためコピーを禁止しており、複写依頼のあった資料については、司書によるデジタル撮影を実施しています。書誌情報のOPAC公開を進めたことにより、大学・研究機関・研究者からの複写依頼が、27年度の1,531枚から28年度は3,387枚と大幅に増加し、研究の便に応えました。

オ AV資料のデータ化

DVD資料（Audio Visual：視聴覚資料）のデータ入力を行い、OPAC検索を可能にしました。

(4) 全国に開かれた図書館としてのサービスの充実

ア 情報提供機能の充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスの情報提供能力の向上が強く求められています。28年度も専門図書館協議会、神奈川県図書館協会、近隣図書館、株式会社ブレインテックなどの団体主催による研修に積極的に参加・交流し、司書のスキルアップと情報収集を図り、利用者からの専門的問い合わせに対応しました。

また、当館の書庫はスペースが限られており、多くの資料で次第に出納が不便になりつつあります。そこで、副本等不要な資料約400冊を除籍すると共に、書庫内各所に別置していた資料を正規の場所に配架するよう、書庫2層全体（135棚）の資料の移動を行いました。

イ 資料保存のための活動

当館の貴重コレクションの中には、他の図書館には所蔵されていないような貴重な資料が数多く含まれています。そのため、資料を健全な状態で保存していくことが当館の重要な役割の一つです。従来よりこまめな清掃や空調管理、書庫入り口の粘着マット使用を実施してきましたが、28年度は簡易ドライクリーニング・ボックスを導入し、随時資料の埃等を払い、中性紙の封筒に移し替え大型保存箱に入れ替えました。

また、修理ボランティアの協力を得て、貴重コレクション用に気密性のある中性紙の個別保存箱を作り、従来の酸性紙ケースから取り替える作業を行っています（7頁の「(6) 修理ボランティアによる資料保存活動」参照）。

(5) 図書館のPR

ア ホームページの活用

当館は丘の上に立地しているために、気軽な来館利用が困難であるという不利な条件を抱えています。そのために、利用者からは気軽に閲覧可能なホームページの充実を強く求められています。

そこで、28年度は貴重コレクションのOPAC検索対応を進めると共に、新着図書やおすすめ本の紹介を毎月2回発信したり、資料展示・催し物の案内情報の情報を随時更新するなど、ホームページの活用を進めました。

イ 所蔵資料の紹介展示

①当館の貴重コレクションは学術的価値が非常に高いものですが、資格を問わず誰でも閲覧利用が出来るように広く公開しています。しかし一般利用者が日ごろ目にする事の少ない閉架書庫内に配架しているため、その貴重コレクションを順次紹介展示し、当館の特色の一端を広報しています。28年度は、貴重書コレクション、道歌コレクションや和装本コレクションから「琵琶譜」などを展示し利用者から好評でした（附属明細書8～9頁参照）。

②当財団では、大倉山講演会、公開講演会その他様々なイベント（1～4頁の「1 精神文化の研究及びその成果の普及」参照）を開催しています。イベントの広報を補完するためと、参加者が内容理解を深め知識を広げられるようにすることを目的として、イベント開催日の前後2週間程度の期間、閲覧室の小スペースを利用して、テーマに関連した図書を展示し、貸し出しも行いました（附属明細書9頁参照）。

ウ 大倉山記念館や地域の行事に連動したイベント

当館は、誰でも閲覧や貸し出しができる公共の図書館としての機能も有しています。11月の大倉山秋の芸術祭や2月の大倉山観梅会等、地域に根差した催事が催される時は、大倉山記念館に多くの市民が来場します。この機会を利用して当館のPRを行い、地域住民の利用者掘り起しと触れ合いの場となるよう、イベント期間中の日曜・祝日の臨時開館と、図書館書庫見学等を実施しました（附属明細書9～10頁参照）。

(6) 修理ボランティアによる資料保存活動

当館の貴重コレクションには、数百年前の資料など劣化が進んでいる資料も数多く含まれています。抜本的な保存計画も進めていますが（6頁の「イ 資料保存のための活動」参照）、27年度より開始した修理ボランティアの活動は、中性紙の保存箱作成を中心に、傷んだ資料の簡易修理・補修等を行うなど、貴重資料の保存に大きな成果を上げています。

28年度はボランティア活動充実のため、新メンバーを3人加えて6人のボランティアが毎月2回の作業を行い、中性紙の保存箱135個を作成し、「古文書古記録影写副本」の酸性紙ケースを入れ替えました。